

つなぐ、フリーペーパー

Paper Smart

TAKE FREE

vol.

14

2025 Jun.

みんなの耳鼻科 *Otolaryngology*

中川医師インタビュー

耳鼻咽喉科院長

Otolaryngology



バックナンバーがWEBから
ご覧いただけます。



Paper Smart

本誌に掲載されている記事、写真、図表などの著作権は、スマートクリニックまたは著作者に帰属します。無断での複製、転載、翻訳、販売などを禁じます。
また、本記事に登場する体験談は、個人の見解に基づくものであり、これをもって一般的な効果や結果が保証されるものではありません。

Paper Smart Vol.14



小学生からシニアまで みんなが安心 できる場所に



中川 佐和子 医師

日本耳鼻咽喉科学会専門医 / 補聴器相談医

【略歴】

岐阜県立多治見北高等学校 卒業
浜松医科大学医学部医学科 卒業
名古屋大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科
公立陶生病院 耳鼻咽喉科
多治見市民病院 耳鼻咽喉科（非常勤）
岐阜県立多治見病院 耳鼻咽喉科 医長
多治見スマートクリニック 耳鼻咽喉科 院長

多治見で生まれ育ち、地域医療に貢献している中川医師。高校時代に芽生えた「人の役に立ちたい」という想いを胸に、医師の道を歩まれてきました。今回は、元気いっぱいだった幼少期の思い出から、日々の診療で大切にされていること、また意外なプライベートの一面まで、自然体で魅力あふれる中川医師にお話を伺いました。

Q 医師になろうと思ったきっかけを教えてください。

私は多治見で生まれ育ち、高校卒業までこの地で過ごしました。夏には水着の跡がくっきり残るほど日焼けし、雲梯（うんてい）やのぼり棒、鉄棒で手にマメができるまで遊ぶ、活発な子どもでした。テレビも大好きで「わくわく動物ランド」や「世界ふしぎ発見」「世界まるごと HOW マッチ」などを見ながら、いつか広い世界に出てみたいという漠然とした夢を抱いていました。家族に医療従事者はいませんでした。が、高校生になり進路を考えるなかで、「人の役に立つ仕事がしたい」「お医者さんってカッコいいな」という気持ちが芽生え、医学部を目指しました。医学部に入ってから6年間の学生生活を通じて、少しずつ医師としての自覚を育ててもらったように思います。

Q 耳鼻咽喉科を選ばれた理由を教えてください。

研修先でとても尊敬できる耳鼻科の先生と出会い、「この先生と一緒に働きたい」と思ったことが大きなきっかけです。また、細かい処置や手技が好きだったことも理由の一つです。耳の奥の側頭骨には、「耳小骨（じしょうこつ）」という人体で最も小さな骨があります。大学2年生の解剖実習で、その小さな骨をノミとツチで綺麗に取り出すことができ、とても感動したのを覚えています。最終日まで小さな袋に大切に保管していました。もちろん最後にはちゃんとお返ししました（笑）

Q 日々の診療で大切にされていることは何ですか？

耳鼻科医として勤務して約20年になりますが、病気を正確に診断することはもちろん、ゲスト（患者様）が何に困り、何を不安に感じているのかを見極めることを、心がけています。

例えば「耳が聞こえづらい」という主訴で来院された場合、私たち医師は聴力検査と難聴の有無を重視しますが、実際には「耳が詰まった感じ」や「耳鳴りで眠れない」といったことに悩んでいるケースもあります。そうした場合には、精神安定剤や睡眠薬の処方など、別の角度からアプローチして不安を取り除くよう努めています。

Q 力を入れている耳鼻科診療について教えてください。

実は耳鼻科の中で最も興味を持ったのが「鼻」の分野です。とくにアレルギー性鼻炎や副鼻腔炎の手術に関心があり、総合病院で勤務していた際に多くの経験を積みました。現在の診療にも、当時学んだ手技や内視鏡手術の経験が活かされています。当院では硬性内視鏡を用いたレーザー手術や鼻茸摘出術を実施しており、これは当クリニックの大きな強みのひとつです。また、アレルギー性鼻炎や難治性副鼻腔炎に対する薬物療法も進歩しており、治療の選択肢が増えていきます。鼻づまりは集中力の低下や頭痛の原因になりますし、嗅覚障害があると食事を十分楽しめません。QOL（生活の質）向上のためにも、改善を目指したいと考えています。

根本治療としては「舌下免疫療法」がおすすめです。お子さまにも取り入れやすい治療法です。治療には3～5年かかりますが、多治見市ではこの春から高校生まで医療費が無料となったため、小・中学生の間に始めて高校生になるまでに終了すれば、経済的なメリットも大きいです。私と2人の子どもたちも現在舌下免疫療法を継続中なので、同じ立場からゲストに寄り添い、アドバイスができるのも強みです。

Q 補聴器相談についての取り組みを教えてください。

補聴器については「もっと多くの方に正しく使ってほしい」「誤解をなくしたい」という想いがあります。「高い補聴器を買ったけれど使っていない」「タンスの肥やしになっている」といった声を聞くと、とても残念に思います。高齢化が進む今、聞こえに悩む方は多くいます。補聴器を使うメリットはたくさんありますので、元気なシニアに是非お勧めしたいです。

Q どんな症状があれば耳鼻科の受診を勧めますか？

「聞き返しや聞き間違いが増えた」と感じたら、一度受診をお勧めします。聴力は徐々に低下するため、本人が気づきにくいのが特徴です。実際に、ご家族や周囲の方の勧めで受診されるケースも多くあります。

Q 補聴器はどこで購入するのがよいでしょうか？

まずは耳鼻科で聴力検査を受けていただきたいです。聴力検査の結果から補聴器が必要な方には、丁寧に説明しています。そして補聴器購入を検討されるゲストには、「情報提供書」を作成します。これを持って、認定補聴器技能者が在籍する「認定補聴器専門店」へ行くのが理想的です。補聴器先進国である欧米では、まず耳鼻科医に相談してから補聴器を選ぶのが常識です。



耳鼻咽喉科医（補聴器相談医）や認定補聴器技能者に相談せず補聴器を購入してしまうと、「期待していた感じと違う」「うるさい」など不快感ばかりが強くなり、つけるのをやめてしまいます。補聴器の使い始めには調整や慣れが必要です。ご自身に合った補聴器を購入するためにも、説明を受けながら導入することをお勧めしています。

Q プライベートでのリフレッシュ方法は？

旅行が大好きで、計画を立てる時間も楽しみの一つです。学生時代は「地球の歩き方」を読み込んで、年に一度の海外旅行のためにアルバイトしていました。今はなかなか遠出できませんが、電車の乗り継ぎや地図を見ているだけでもワクワクします。もし医師になっていなかったら、旅行関連の仕事に就いていたかもしれません（笑）

Q 子どもの頃の自分に声をかけるとしたら？

わりと堅実な道を選んできたので、「もっとハチャメチャでもよかったよ。いろんなことにチャレンジして、失敗しても大丈夫だよ」と言いたいです。

Q 忙しい日々の中で、幸せを感じる瞬間は？

お風呂に入る時間です（笑）そして、ゲストから「ありがとう」「安心しました」と言っていただけたとき。やはりこれが一番のやりがいです。

Q 耳鼻科受診を考えている方へ一言お願いします。

身近な症状やお悩みに寄り添えるのが、クリニックの良さだと思っています。これは総合病院に勤めていた時には出来なかったことですし、私らしさが出ていると思っています。「こんなことで耳鼻科を受診していいの？」と迷わず、どんな小さなことでも気軽に相談いただけると嬉しいです。

おわりに
中川先生の飾らないお人柄と、自然と安心感を抱かせてくれる雰囲気印象的なインタビューでした。豊富な知識と経験に加え、「この先生なら何でも相談できそう」と思わせてくれる存在感が、多くの方から信頼されている理由なのだと感じました。耳・鼻・喉のお悩みはもちろん、ちょっとした不安でも、お気軽にクリニックを訪れてみてください。